

天草富津地区における住民参加による場づくりに関する研究

Study on community development focusing the participation of inhabitants in Tomitsu area, Amakusa

熊本大学大学院自然科学研究科社会環境工学専攻 111d8825 原嶋 香菜子

1. はじめに

住民参加のまちづくりが増加し、WS 等の場が設けられており、日常の場へと発展するような「場」が求められている。本研究の目的は、住民の参加を促す「場づくり」の要因を、天草富津地区を対象として考察し、まちづくり活動へ生かすことである。そのために①富津地区におけるこれまでの活動を、主体別に分けて整理した②各活動について住民参加を視点とした時の「場」としての意義を分析した③非日常の活動が住民を主体とした日常の活動へと変わる「場づくり」の要因を考察した。

2. 「場」づくりの定義

いずれも何らかの場所(時間・空間)に存在していると考えられる。空間とは物体と物体との関わりであり、本研究においては、物体=人として、人と人との関わりと定義する。空間には、場をつくる主体と参加者が存在する。主体側の目的と参加者側の目的が場を通じて行われた活動によって、主体と参加者間で共有される。これを一つの「場」として考える。

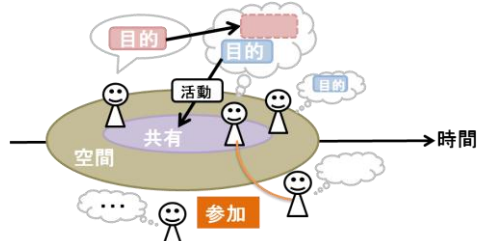


図1 場のメカニズム

3. 富津地区の概要

富津地区は、漁村の崎津地区、農村の今富地区の重要文化的景観に選定された2地区からなる。2006年に長崎県の関係市町が世界遺産の提案書を提出し、翌年国内の世界遺産暫定リストに搭載された。2007年天草市教育委員会文化課に世界遺産登録推進担当が配置され、世界遺産に向けた取り組みが始まった。これをきっかけとして富津地区では、行政・アソシエーション・地域住民の活動が始まった。

4. 富津地区における活動の整理

地域住民：地域の文化継承を目的とした NPO 南風屋、地域の盛り上がりを目的に行政と連携し活動を行う NPO さいのつが活動を行っている。行政：世界遺産登録、重要文化的景観に関して、地域住民への理解を目的とした住民説明会や、学術検討会、文化的景観整備事業を天草市主導のもと行っている。アソシエーション：デザイン事業のための WS や、まちづくりへの興味関心を目的としたまち歩き等を行っている。

表1 富津地区の活動年表

年	地域住民	行政	アソシエーション
2004年			
2007年	きっかけ		
2008年			
2009年	行政と地域住民の協力体制	景観に対する地域住民への理解	専門家との場づくり
2010年			
2011年			まちづくりに関するWS活動
2012年			

5. 富津地区における「場」づくりに関する分析

5.1 住民参加の動機(目的)

参加については、“役員として”といった外発的動機が参加に大きく影響している。

5.2 住民参加による印象(共有)

世界遺産をきっかけに地域について学ぶ場、WS で他人の意見を共有する場が印象として残ることが分かった。

5.3 住民参加による「場」づくりに関する分析

a) 地域住民の活動：活動の場所があること、文化伝承や既存のコミュニティを活かした参加によって作られる。

b) 行政の活動：地域住民との協力体制が目的を果たす上で重要である。

c) アソシエーションの活動：行政との協力により行われ、活動内容により幅広い地域住民の参加を促すことができる。

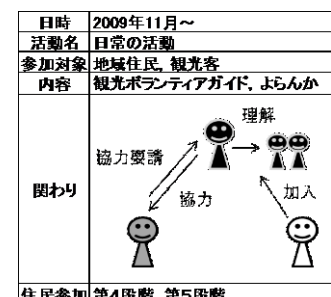


図2 場の分析例

6. おわりに

本研究では、住民の参加を促す「場」づくりについて、天草富津地区を対象として考察し、まちづくり活動へ生かすことを目的とした。そのために、富津地区の活動を主体別に整理し、住民参加を視点として分析した。今後は日常の場についても分析を行い、非日常の場づくりと比較する必要がある。